

もり まち  
森林を活かす都市の木造化推進議員連盟

現地視察（宮城県仙台市）について  
【視察報告】

1. 日 時：令和3年3月22日（月）

2. 視察先：宮城県仙台市

たかそう  
高惣木エビル（仙台駅東口）

3. 出席議員

塩谷 立	農林・食料戦略調査会長（衆）
宮下 一郎	農林部会長（衆）
吉野 正芳	議連会長（衆）
金子 恭之	議連幹事長・林政対策委員長（衆）
八木 哲也	議連幹事（衆）
伊藤信太郎	衆議院議員
土井 亨	衆議院議員

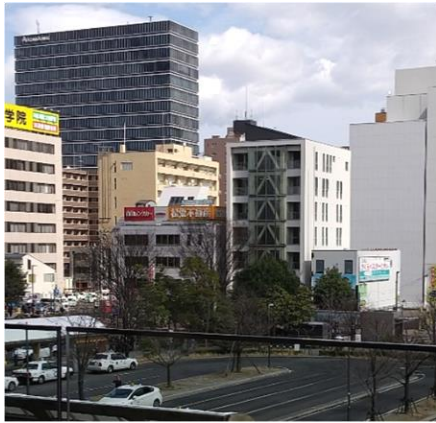
4. 概要説明等及び意見交換

【(株)シェルター（設計・施工者）から概要説明等】

- ・ 本物件では宮城県、福島県、岩手県を中心に調達したスギ・ヒノキの一般流通材を使用。一般流通材は全国の製材工場で加工ができ、それを使用することにより山にお金を還せる。
- ・ 本物件の工期は約9カ月。RC造はコンクリートを乾かす時間が必要だが、本物件は加工済の乾燥材を現場で組み立てるため工期が短い。
- ・ 木造は建物本体が軽いことに加え、本物件の建設地は地盤が良く杭が不要であったことから低コストにつながった。

【意見交換】（→は(株)シェルターによる応答）

- ・ 地元の木材を地元で使用することが重要。
- ・ 民間に木造建築物を広げるためには JAS 製材を安定的に調達できることが必要。
  - 本物件では東日本大震災の被災地の材を使用。JAS 製材はスムーズに集めることができた。
- ・ 木造化を進めるにはコスト競争力が重要であり、どの程度の建設費かが重要。
- ・ CLTを使用すると建設費は上がるのではないか。
- ・ 接合金物の費用はどの程度かも重要ではないか。
  - 周囲のS造、RC造の賃料などを基に分析すると、単位面積当たりの建築費は若干安くできたと考えている。CLTを使うと高くなる可能性もあるが、当社は一般流通材をバランスよく使うことでコストをマッチさせている。接合金物の費用は構造体の費用の15~20%。
- ・ 耐震性能が重要であるが、本物件では地震にいかに対応しているのか。
- ・ 木造化の促進には耐火部材等技術の普及が重要。
  - 軸材である筋交いにより地震力を受けている。先般の震度6弱の地震でも問題は生じていない。当社のCool Woodは日本木造耐火建築協会員となり講習を受ければ利用可能。国土交通省や建築研究所の耐火データは基礎資料として役立っている。
- ・ 木造建築物の耐久性がどの程度かが重要。
- ・ 外壁にも木材が使えるとよいのではないか。
  - 雨がかりや湿気がなければ数千年もっている寺社仏閣もあるが、現時点では木造建築物の事例が少なく経済的な耐久年数は明らかではない。雨がかりする箇所での木材利用については、技術が追い付いていない。



【仙台駅東口より】



【高惣木エビル入口前】



【塩谷農林・食料戦略調査会長ご挨拶】



【吉野議連会長ご挨拶】



【宮下農林部会長ご挨拶】



【金子議連幹事長・林政対策委員会会長ご挨拶】



【木村シェルター会長ご挨拶】



【説明の様子】